

外		書	の	家	倉	半	の		感	記		に	を	な		初	位	は		
研	作	き	周	族	の	生	定	作	じ	「	し	詩	書	ど	当	期	を	、	「	
究	品	上	辺	を	街	の	ま	家	る	伝	か	情	き	、	時	の	不	こ	或	
の	の	げ	を	抱	で	記	ら	が	上	』	し	を	、	戦	の	作	動	の	る	
作	主	た	彷彿	え	、	』	ぬ	こ	質	は	、	添	権	作	品	に	作	「	小	
品	人	作	し	た	勤	に	初	の	の	違	芥	え	力	品	を	し	の	品	倉	
に	公	品	た	窮	め	よ	期	先	文	い	川	読	へ	は	と	読	頃	著	日	
そ	、	で	た	乏	先	れ	の	、	学	ま	賞	者	の	、	読	ん	で	者	記	
の	田	あ	自	す	の	ば	作	何	作	し	を	を	怒	『	だ	す	松	本	「	
名	上	っ	ら	生	新	、	品	を	品	た	受	魅	り	砂	の	°	本	清	伝	
が	耕	た	の	活	聞	激	、	書	と	。馥	賞	了	、	の	器	が	ど	張	』	
載	作	と	思	の	社	動	作	い	思	郁	し	弱	者	過	』	こ	の	が	を	
っ	は	書	い	中	で	す	家	て	い	と	『	へ	者	去	や	の	本	推	初	
て	実	か	や	で	の	争	が	い	ま	し	或	の	へ	に	『	本	説	理	め	
い	在	れ	体	、	不	前	後	く	し	た	。一	共	の	起	『	で	も	作	て	
る	人	て	験	小	遇	後	に	か	た	。ロ	小	感	の	因	ゼ	し	面	家	読	
人	、	い	を	倉	や	の	書	ま	。マ	ン	倉	の	深	す	ロ	た	白	の	ん	
で	森	ま	重	や	両	の	いた	方	。小	日	さ	さ	の	犯	の	°	く	の	だ	
す	鷗	す	ね	そ	親	小	『	向						罪	焦		、	地	の	
。		。	て		や									点						

学	尋	品	の	あ	失		倉	師	そ		抱	の	の		母	外	不	は	出
問	ね	を	小	り	意	こ	で	団	の	森	き	鈴	耕	ふ	れ	自	奇	生	
を	歩	翻	倉	、	の	の	暮	に	鷗	鷗	、	の	作	じ	由	形	時		
追	き	訳	で	既	も	赴	ら	軍	外	外	鷗	は	品	の	で	形	か		
究	、	し	、	に	の	任	し	医	が	は	外	幼	中	一	し	、	ら		
す	多	、	す	有	で	は	て	部	明	夏	全	時	に	途	た	言	耕		
る	く	小	ぐ	名	し	左	鷗	長	治	目	集	に	聞	な	が	葉	作		
僧	の	倉	に	な	た	遷	外	と	三	漱	を	見	い	献	、	が	は		
に	人	の	旺	作	が	で	も	し	十	石	読	つ	た	身	聞	、	、		
邂	と	自	盛	家	、	鷗	鈴	て	二	と	み	け	屑	が	き	神			
逅	交	然	に	で	し	外	の	赴	年	並	、	、	拾	耕	取	経			
し	流	に	活	も	か	に	音	任	六	ぶ	鷗	、	い	作	り	性			
て	す	触	動	あ	し	と	を	し	月	明	外	強	の	を	難	の			
生	る	れ	を	っ	、	っ	聞	、	、	治	に	い	後	支	く	障			
涯	中	な	始	た	多	て	いた	三	小	の	惹	、	に	え	、	害			
の	で	が	め	鷗	才	は	の	年	倉	文	か	そ	森	ま	左	が			
友	、	ら	ま	外	で	不	で	近	の	豪	れ	の	鷗	す	足	あ			
人	無	史	す	は	医	本	す	く	第	で	ま	外	外	。	が	っ			
と	欲	実	。	、	者	意	す	を	十	す	す	に	外		跛	て			
し	に	を	作	こ	で	、	。	小	二	。	。	外	外	や	並	で	顔		

ら	の	の	き	さ	の	間	な	い	変	ど		勸	れ		ま	日	倉	大	こ
母	不	四	、	れ	史	た	っ	ろ	極	お	し	め	た	森	ま	々	は	き	の
ふ	自	季	山	な	跡	ち	た	い	ま	ら	か	ら	と	鷗	、	を	鷗	く	小
じ	由	の	に	な	も	の	安	ろ	り	ず	し	れ	思	外	四	書	外	影	倉
が	な	自	も	か	廻	縁	国	な	な	、	も	、	わ	に	十	い	研	響	滞
付	身	然	登	つ	り	者	寺	手	く	人	う	れ	る	惹	年	た	究	し	在
き	が	に	っ	り	ま	を	さ	が	、	一	今	る	小	か	の	『	者	た	が
添	災	慰	も	、	す	訪	ん	か	苦	倍	は	小	倉	れ	年	小	に	と	、
い	い	め	徒	不	。聞	ね	、	を	難	不	、	と	の	た	月	倉	は	言	後
ま	す	癒	労	自	き	、	玉	頼	の	自	当	思	日	耕	が	日	重	わ	の
す	る	さ	に	由	難	鷗	水	り	日	由	時	い	々	笹	過	記	要	れ	森
。小	に	れ	終	な	い	外	俊	に	々	の	の	立	を	は	ぎ	』	な	ま	鷗
倉	気	て	わ	足	話	が	虢	、	が	身	鷗	っ	、	こ	て	が	場	。そ	外
や	づ	進	っ	で	し	調	を	鷗	続	体	外	た	文	の	い	所	で	の	作
柳	き	み	たり	二	方	べ	調	外	き	で	を	の	学	日	た	す	が	た	品
川	、	ま	。途	里	に	、	べ	の	まし	知	知	で	仲	記	の	、	、	め	の
を	途	す	。途	の	相	た	、	盟	た。	る	人	す	間	に	す	そ	、	作	風
尋	中	耕	途	を	手	近	禅	友	始	は	は	。	に	書	。	の	の	、	に
ね	か	作	中	歩	に	在	の	と	始	大	殆		も	か		の	小		

し	行	わ	で	の		の	考	と	う	り	人	人	葉	ま		書	か	ま	歩
た	き	れ	知	障	私	で	え	作	に	組	の	一	が	す	し	い	と	し	き
。	、	馬	能	害	に	す	も	家	考	む	方	倍	迷	？	て	何	し	、	、
母	六	鹿	も	を	は	。	出	は	え	耕	が	苦	う	ー	尋	度	た	少	、
に	十	に	低	免	脳	な	来	迷	れ	作	何	労	耕	と	ね	も	耕	し	ず
言	歳	さ	く	れた	性	ん	も	う	ば	に	倍	し	作	冷	、	自	作	つ	つ
え	ま	れ	、	た	小	と	し	の	良	浴	も	、	の	た	励	問	は	、	、
ず	で	な	優	弟	児	酷	ない	です	い	び	強	懸	心	い	ま	自	、	、	、
私	仕	が	し	です	麻	い	道	。	か	せ	い	命	に	言	さ	答	こ	、	、
に	事	ら	い	が	痺	こ	を	思	、	ら	の	に	突	葉	れ	し	れ	、	、
、	も	、	人	、	の	と	懸	え	も	れ	で	求	き	を	、	、	が	、	、
何	し	で	多	動	弟	を	命	ば	う	た	す	め	刺	浴	調	本	、	、	、
度	て	も	く	き	が	と	に	、	一	こ	。	る	さ	び	べ	当	、	、	、
も	、	健	い	は	い	私	歩	健	つ	の	身	姿	り	せ	、	に	、	、	、
一	懸	常	る	鈍	ま	も	いた	常	の	言	を	は	、	ら	、	意	、	、	、
な	命	者	中	く	した	思	た	者	生	葉	粉	障	傷	れ	、	味	、	、	、
ぜ	に	の	で	、	。	う	耕	の	き	を	に	害	つ	、	の	、	、	、	、
こ	生	学	、	斜	重	の	作	方	方	ど	し	を	き	そ	あ	、	、	、	、
ん	き	校	笑	視	度	で	な	が	も	の	て	持	ま	の	る	、	、	、	、
な	ま	に				す				よ	取	っ	す	言	事	紙	、	、	、

の	森	の	そ	作	を		わ	作	作	れ		は		に	弟	自		か	体
「	鷗	原	こ	が	何	同	れ	家	に	ま	『	「	戦	胸	と	分	母	っ	に
小	外	点	か	歩	度	じ	ぬ	は	と	し	小	鈴	中	が	死	の	ふ	た	「
倉	の	な	ら	い	も	時	徒	読	っ	た	倉	の	、	熱	に	人	じ	の	と
日	そ	の	作	た	歩	期	労	者	て	。死	日	音	戦	く	たい	生	は	で	嘆
記	れ	で	家	道	き	、	の	に	、	の	『	「	後	なり	と	を	、	す	き
「	で	。す	松	が	回	失	日	問	幸	後	』	の	の	、	言	捧	私	。泣	
で	あ	。『	本	、	っ	意	々	い	で	で	は	幻	食	つ	つ	げ	は	泣	
も	り	小	清	自	た	の	。そ	か	あ	見	耕	聴	糧	他	た	て	黙	いた	
あ	、	倉	張	分	作	日	の	け	っ	つ	作	を	不	人	私	愛	っ	た	
る	田	日	は	の	家	々	思	ま	た	か	の	語	足	事	の	情	つ	の	
と	上	記	生	道	に	に	い	す	か	不	死	り	に	に	母	深	て	で	
私	耕	『	ま	で	は	、	に	。人	幸	で	の	、	瘦	思	を	く	聞	す	
は	作	は	ま	も	、	小	私	生	あ	あ	は	亡	せ	え	思	見	く	。辛	
思	の	偉	し	あ	実	倉	も	は	っ	は	な	く	衰	ま	守	守	だ	い	
い	、	大	た	り	在	や	悩	殆	た	、	年	な	え	せ	り	り	け	こ	
ま	松	な	。作	ま	の	そ	み	ど	か	発	に	り	て	ん	ま	ま	で	と	
し	本	文	家	し	田	の	ま	が	と	見	発	ま	、	で	し	し	し	が	
た	清	豪		た	上	周	す	報		さ	見	した	耕	した	た	した	た	多	
。』	張			。』	耕	辺				耕	さ	た	作	た	。』	て	。』		